

ワコビタール®坐剤15
 ワコビタール®坐剤30
 ワコビタール®坐剤50
 ワコビタール®坐剤100

【この薬は？】

販売名	ワコビタール 坐剤15 WAKOBITAL Supp. 15	ワコビタール 坐剤30 WAKOBITAL Supp. 30	ワコビタール 坐剤50 WAKOBITAL Supp. 50	ワコビタール 坐剤100 WAKOBITAL Supp. 100
一般名	フェノバルビタールナトリウム Phenobarbital sodium			
含有量 (1個中)	15mg	30mg	50mg	100mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、催眠・鎮静・抗けいれん剤で、バルビツール酸誘導体と呼ばれるグループに属する坐薬（ざやく）です。
- ・この薬は、脳が興奮している状態を少しずつ寝つきをよくし、不安や緊張をやわらげ、けいれん発作を抑える働きがあります。

- ・次の目的で処方されます。

小児に対して経口投与が困難な場合の次の目的に用いる。

催眠

不安・緊張状態の鎮静

熱性けいれん及びてんかんのけいれん発作の改善

- ・この薬は、体調が良くなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに使用することが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にワコビタール坐剤に含まれる成分またはバルビツール酸系化合物（バルビツール酸誘導体）で過敏症のあった人
- ・急性間欠性ポルフィリン症の人
- ・ボリコナゾール、イサブコナゾニウム硫酸塩、タダラフィル（肺高血圧症を適応とする場合）、マシテンタン、チカグレロル、ドラビリン、アルテメテル・ルメファントリン、ダルナビル・コビシスタット、リルピビリン、ミフェプリストン・ミソプロストール、ニルマトレルビル・リトナビル、リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド、ソホスブビル・ベルパタスビル、ドルテグラビル・リルピビリン、カボテグラビルを使用中の人
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・虚弱な人、または呼吸機能の低下している人
- ・頭部外傷後遺症または進行した動脈硬化症の人
- ・心臓に障害のある人
- ・アルコール中毒のある人
- ・薬物依存の傾向のある人または過去に薬物依存の傾向のあった人
- ・重篤な神経症の人
- ・甲状腺機能低下症の人
- ・腎臓に障害がある人
- ・肝臓に障害がある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬 [ボリコナゾール (ブイフェンド)、イサブコナゾニウム硫酸塩 (クレセンバ)、タダラフィル (肺高血圧症を適応とする場合：アドシルカ)、マシテンタン (オプスミット)、チカグレロル (ブリリンタ)、ドラビリン (ピフェルトロ)、アルテメテル・ルメファントリン (リアメット配合錠)、ダルナビル・コビシスタット (プレジコビックス配合錠)、リルピビリン (エジュラント)、ミフェプリストン・ミソプロストール (メフィーゴ)、ニルマトレルビル・リトナビル (パキロビッド)、リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エ

ムトリシタビン（オデフシィ配合錠）、ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（ビクタルビ配合錠）、ダルナビル・コビススタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（シムツーザ配合錠）、エルビテグラビル・コビススタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド（ゲンボイヤ配合錠）、ソホスブビル・ベルパタスビル（エプクルーサ配合錠）、ドルテグラビル・リルピピリン（ジャルカ配合錠）、カボテグラビル（ボカブリア）] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状や体重などにあわせて、医師が決めます。
通常、小児の使用量は、次のとおりです。

1日に体重1kgあたり4～7mgを使用します。

●どのように使用するか？

この薬は肛門（こうもん）に入れる坐薬です。口から飲まないでください。

●使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に使用しないでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

眠気、眼振、運動失調（手足の動きがぎこちない、言葉がききとりづらい、ふらつき、まっすぐ歩けない）が起こり、重症の中毒では昏睡状態になります。呼吸が抑制され、脈拍は弱く、皮膚には冷汗があり、体温は下降します。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔熱性けいれんおよびてんかんのけいれん発作の改善の場合〕

- ・この薬を続けて使用している場合に、急に薬を減量したり使用をやめたりすると、てんかん重積状態（てんかん発作をくりかえし、なかなか回復しない状態）があらわれることがあります。使用をやめる場合は、徐々に減量されます。特に高齢の人や虚弱の人の場合には注意が必要です。自分の判断で薬を減量したり使用をやめたりせず、医師の指示通りに使用してください。

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・この薬の使用中は定期的に肝機能や腎機能の検査、血液検査が行われることがあります。
- ・この薬の使用を続けていると、薬をたくさん使いたい、薬がないといられない気持ちになるなど、薬物依存（ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、手足のふるえ、発汗、幻覚、不眠）の症状があらわれることがあるので、てんかんの治療に使用する場合以外は、長期間の使用は避けることとされています。また、この薬の量を急激に減らしたり、中止したりする事で、離脱症状（脱力感、いらいら感、頭痛、吐き気、嘔吐、不眠、幻覚、幻聴（幻声）、けいれん発作）があらわれることがあるので、この薬を中止する場合には、徐々に減量されます。この薬を使う量や使う期間については、医師の指示に従ってください。
- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下がおこることがあるので、使用

中は十分注意してください。

- ・アルコール飲料、セイヨウオトギリソウを含有する食品はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使用することはできません。
- ・授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。



このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆう かいしょう (トキシック・エピダー マル・ネクロリシス: テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、 発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (S t e v e n s - J o h n s o n 症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス・ジョンソンし ょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑 の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発 する
紅皮症 (剥脱性皮膚炎) こうひしょう (はくだつせいひふえ ん)	ほぼ全身の皮膚が発赤する、発熱をしばしば伴う、しば しばフケのようなものがはがれ落ちる
過敏症症候群 かびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体が だるい、リンパ節 (首、わきの下、股の付け根など) のは れ
依存性 いぞんせい	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来な い、手足のふるえ、発汗、幻覚、不眠
顆粒球減少 かりゅうきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止 まりにくい
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲 不振
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、発熱をしばしば伴う、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、発汗、突然の高熱、寒気、出血が止まりにくい、疲れやすい、力が入らない
頭部	しばしばフケのようなものがはがれ落ちる、ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、不眠、幻覚
顔面	鼻血
眼	目の充血やただれ
口や喉	唇や口内のただれ、喉の痛み、歯ぐきからの出血、吐き気
胸部	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
腹部	食欲不振
手・足	手足のふるえ
皮膚	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、ほぼ全身の皮膚が発赤する、全身性の発疹、皮膚が広い範囲で赤くなる、あおあざができる

【この薬の形は？】

販売名	ワコビタール 坐剤15	ワコビタール 坐剤30	ワコビタール 坐剤50	ワコビタール 坐剤100
形状	 紡錘形の 坐剤（ざざい）	 紡錘形の 坐剤	 紡錘形の 坐剤	 紡錘形の 坐剤
大きさ	最大径 7.5mm 長さ 22.7mm	最大径 7.5mm 長さ 22.7mm	最大径 8.0mm 長さ 23.6mm	最大径 9.0mm 長さ 25.9mm
重さ	0.76g	0.77g	0.93g	1.17g
色	白色～帯黄白色	白色～帯黄白色	白色～帯黄白色	白色～帯黄白色

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ワコビタール 坐剤15	ワコビタール 坐剤30	ワコビタール 坐剤50	ワコビタール 坐剤100
有効成分	フェノバルビタールナトリウム			
添加剤	ウイテプゾールH-15			

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・冷蔵庫などの涼しいところ（1～15℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：高田製薬株式会社

(<https://www.takata-seiyaku.co.jp/>)

くすり相談窓口

電話：0120-989-813

受付時間：9時00分～17時00分

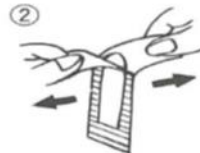
（土、日、祝祭日、弊社休業日を除く）

坐剤の使い方

坐剤の取り出し方



切れ目を利用して1個を切り離します。



上図の要領で静かに左右に開いて坐剤を取り出します。

坐剤の入れ方

- 坐剤の太い方から肛門内に深くそう入して下さい。
- お子様は図のような姿勢をとらせ、そう入後4～5秒押さえて下さい。
- 坐剤のそう入時間は医師等の指示によりませんが、使用する前にできるだけ排便をすませておいて下さい。



ご注意

- 口から服用しないで下さい。
- 冷蔵庫などの冷暗所に保管して下さい。
- お子様の手の届かないところに保管して下さい。